

創刊50号に寄せて ～思い出話つれづれ～

国土交通省 四国地方整備局 企画部 五十川 泰史

創刊50号達成おめでとうございます！

創刊号から第9号まで編集担当をしておりましたが、この依頼を頂いてから改めて創刊号を見返し、当時のことを大変懐かしく思い出しました。

長文の思い出話となりますが、お付き合いいただけると幸いです。

メールマガジンの発刊は、当時の上司の強い希望であり、担当する我が身としては、「毎月発行できるだろうか…」という不安を抱えながら、やっとの思いで創刊号を発行したのを覚えています。

記事の内容の収集や編集の他にも、メールの送信先の調整（送信することについてご了解いただき、メールアドレスを教えてください）などが必要で、送信した後もメールアドレスの記入ミスなどでエラー返信が何件もあってまた確認の連絡をしたり…と、安定軌道に乗せるために数ヶ月要したと思います。

また、このメルマガの特徴として、毎号「地域の取組」が掲載されていることが挙げられると思いますが、これも、毎号依頼先を考えて連絡をし、執筆頂いて掲載する訳ですが、「あ！もうこんな日にち。早くしないと間に合わない！」と毎月のように慌てながら、また短期間での依頼となりご迷惑をお掛けしながら、何とか月末に間に合わせるということを性懲りもなく繰り返していました。

しかし、そのような繰り返しによって、各地域の取組について担当されている方とのつながりを持つことができましたし、その経験を「地域のモビリティ確保の知恵袋～モビリティは地域の元気の源～」の編集に活かすことができました。

その前年の「地域の自立的発展のためのモビリティ確保に向けた検討の手引き」は、私も1年目でこれまで経験しなかった分野に手探りで取り組んだこともあって、全国的なデータの整理や、事例の情報収集や取材はネットや電話、メールでのやりとりがほとんどでした（当時、かなりしつこく、また無理な取材をしてご迷惑をお掛けした皆様、この場を借りて改めてお詫び申し上げます）が、2年目の「知恵袋」の編集に当たっては、この時の経験を活かして、全国38機関のご協力を得てヒアリングを敢行するなど、充実した取材を行うことができました。（ご協力頂いた関係機関の皆様、またヒアリングのため出張して

頂いた当時の参事官室の皆様、ありがとうございました。）

ヒアリングに当たっては、担当の皆様にお会いするために出張するのですが、行く先々でとても温かく迎えて頂き、また熱い思いを直接お聞きすることができました。（その一部は、「知恵袋」の「実践例」に掲載させて頂きました。）

また、北近畿タンゴ鉄道の車窓から見た日本三景天橋立や、和歌山電鐵の「たま駅長」との対面など、沢山の貴重な経験もできました。

さらに、副次的な効果として、ワードの扱いに慣れたことや、分かり易い文章構成について勉強することができた（上司の厳しいご指導の賜物です）ことなど、様々な経験を積むことができました。

そして、国交省内の各方面にも取材や内容の確認のために通いました。交通関係の施策（ソフト系が中心ですが）を広く浅く知ることができたことも、貴重な経験でした。

このように、総合交通担当での2年間は、とても充実した2年間でした。

その後は、四国に異動し、3年5ヶ月になります。

四国もご多分に洩れず、公共交通を巡る状況は大変厳しいものがあります。特に問題となっているのが、高速道路料金の値下げをきっかけに本州と四国を結ぶ交通利用者が大幅に減少したことによる影響です。（大幅値下げの終了後も元通りの回復とはなっていません。）

これまでもフェリー航路の撤退が相次ぎ、つい先日にも宇野・高松間を運行するフェリー会社が運行休止を発表したところです。

現在は高松港近くに勤務先があり、小豆島や直島など瀬戸内海の島々へ頻繁に行き交う船を見て、港町の活気を間近に眺めている私としては、寂しい思いをしているところです。



女木島
(鬼ヶ島)



小豆島



屋島



高松港全景

一方で、過去民事再生法の適用を申請し、再スタートを切った「ことでん」(高松琴平電気鉄道)は、昨年開業100周年を迎え、「ひやく?」(「百」と「飛躍」の二つの意味をもち、次の百年に向けて飛躍していこうという、メッセージを込めているそうです(ことでんHPより))をキャッチフレーズに、経営努力を続けています。(ことでんHP <http://www.kotoden.co.jp/>)

私も、ことでんに揺られながら、通勤する毎日です。



ことでん開業100周年記念ラッピング
電車「ことちゃんひやく号」
(背景は「玉藻公園(史跡高松城跡)」)



高松駅前
※手前は「海水池」。海と繋がっていて、潮の満ち引きに合わせて水位が変わる

大変長くなりました。最後まで読んで頂いた方、取り留めのない文章にお付き合いいただきまして、ありがとうございました。

最後に、創刊50号まで継続された編集担当の皆様には敬意を表しますとともに、これまでの発行にご協力頂きました全ての皆様に御礼申し上げます。

今後とも、「総合交通メールマガジン」をご愛読頂きますよう、よろしくお願い致します。

追伸：四国は讃岐うどん、瀬戸内の島々、阿波踊り、鯉のたたき、道後温泉、四国カルスト、西日本最高峰の石鎚山などなど、“見どころ”や“おいしいもの”がたくさんあります。是非お越し下さい。